

10/19
朝日

南スーダンで 戦闘60人死亡

南スーダンの政府軍報道官は17日、同国北東部マラカル周辺で政府軍と反政府勢力の間で戦闘が起き、双方合わせて少なくとも60人が死亡したと明らかにした。AFP通信が伝えた。

同報道官によると、戦闘は14日夜から15日にかけて発生。マシヤル前副大統領

を支持する反政府勢力が、マラカル周辺で政府軍の拠点2カ所を襲撃し、政府軍が反撃した。反政府勢力の戦闘員56人と政府軍兵士4人が死亡したとしている。

南スーダンでは、陸上自衛隊が国連平和維持活動（PKO）に参加している。首都ジュバでは7月、政府軍と反政府勢力が武力衝突し、数百人が死亡。以来、北部を中心に戦闘が続いている。（ヨハネスブルク）

◇

稲田朋美防衛相は18日午前の閣議後の記者会見で、「自衛隊が活動しているジュバ市内は落ち着いている。PKO（参加）5原則は維持された状況だと思ふ」と述べ、自衛隊の活動には影響がないとの認識を示した。

一方で、次期派遣部隊に安全保障関連法で任務を拡大した「駆けつけ警護」を付与するかどうかは「現地情勢や訓練状況などを慎重に見極めつつ、政府内で総合的に検討をしていく」と述べた。